一般講演

A 01 メッシュ気候図による東北地方のヒトスジシマカの分布解析

○小林睦生、二瓶直子、佐々木年則、栗原 毅 (国立感染研・昆虫医科学部)

Analysis of the distribution of *Aedes albopictus* in Tohoku District by mesh climatic mapMutsuo Kobayashi, Naoko Nihei, Toshinori Sasaki & Takeshi Kurihara
(Department of Medical Entomology, NIID)

1998 年～2000 年の東北地方におけるヒトスジシマカの分布調査では、新たに秋田と能代、山形、一関で分布が確認されている。GIS の手法を用いたメッシュ気候図を作成し、2000 年までの同蚊の分布を解析したところ、年平均気温 11℃を示す地域に分布が見られた。しかし、一方で 11℃以上を示す横手、水沢、気仙沼等の地域では同蚊が確認されていなかった。そこで、2001 年 9 月から 10 月にかけて、同蚊の分布が確認されていない地域を中心に分布調査を行った。その結果、横手、水沢、気仙沼、新庄で新たに分布が確認された。1997 年以降の年平均気温の上昇が同蚊の分布域拡大に関係している可能性があり、今後、年平均気温が 2℃上昇した場合のメッシュ気候図による予測に基づいて岩手県北部、青森県等の調査を行う予定である。

A 02 ベトナムにおけるネッタイシマカ腹部斑紋の地理的変異○津田良夫¹、Vu Sin Nam²、杉山章³、沢辺京子⁴、高木正洋¹(¹長崎大・熱研・生物環境、²NIHE、Vietnam、³名古屋女大・公衆衛生、⁴産業医大・寄生虫・熱帯医学)Geographic variation of dorsal pattern of *Aedes aegypti* in Vietnam

Tsuda, Y., Nam, V., Sugiyama, A., Sawabe, K. and Takagi, M.

ベトナムの 3 地域(南部、中部、北部)に位置する 8 カ所(Hanoi、Hatay、Quangngai、Bentre、Quangnam、Khanhhoa、Kiengiang、Cantho)でネッタイシマカ、*Aedes aegypti*、幼虫を採集して実験室に持ち帰り、羽化させて成虫の腹部斑紋の変異を調査した。その結果次のような結果が得られた。(1)全体に黒っぽい個体の割合が非常に高い、(2)腹部斑紋変異には採集地間で統計的に有意な違いがある、(3)どの採集地のサンプルでも雌のほうが雄よりも白鱗が多く白っぽい、(4)雌が白っぽい集団では雄も白っぽい傾向がある、(5)調査地域の地理的位置と腹部斑紋変異の間には関連性は見られず、白っぽい集団と黒っぽい集団の両方がそれぞれの地域に混在している。